

## 校長室の窓から

令和3年1月20日（水）

今日は暦の上では「大寒」でした。実際に今朝の巖木町内の最低気温はマイナス5度とまさに暦どおりの大変寒い朝となりました。その後、日中は一日をとおして暖かな日差しにも恵まれたため、お昼前後には春を感じさせる穏やかな日和となりました。

そのような中、本日、佐賀県立名護屋城博物館で学芸員をしておられる飯田周恵先生に巖木高校までおいでいただき、1年生から3年生まで全校生徒を対象に「佐賀県の歴史・文化について～名護屋城史跡中心に～」という演題で「さがを誇りに思う教育推進事業」講演会を開催いたしました。

年明けから佐賀県内においても新型コロナウイルス感染拡大傾向にあることから、飯田先生には別室でお話しいただき、生徒たちはそれぞれの教室で電子黒板をとおして飯田先生が準備していただいたパワーポイントの資料をリモートで見たり、先生のお話を聞いたりさせていただきました。ICT支援員さんのサポートをいただき機器の接続等途中不具合もなく通信状態は安定していましたが、飯田先生には目の前に生徒がいない状況でお話しをしていただき、話しぶりいことがあったかと思えます。申し訳ございませんでした。

私もいろいろな教室の通信状況を確認しながら、生徒たちと一緒に飯田先生のお話を興味深く聞かせていただきました。

名護屋城は秀吉が朝鮮出兵の拠点とするために、全国各地の大名たちに命じて築城したことなど、すでによく知られている内容についても触れていただきました。が、当時の名護屋城の規模が現在の巖木高校の敷地の約4.7倍にも相当する大きさであったことや、松浦党の一味であった波多親（ちかし）氏が巖木の鬼子岳城を居城としていたこと、波多氏が秀吉の命に背いたとのことで改易の処分を受け、常陸国筑波、現在の茨城県、まで流され病死したことなど、名護屋城が存在した16世紀末の出来事が21世紀を生きる私たちにとってとても身近なことのように感じられる素敵で不思議な1時間でした。

私自身、ずいぶん佐賀県立名護屋城博物館を訪問していなかったことを思い出し、数年前にコンピュータグラフィックを駆使して再現された当時の名護屋城の様子を是非見せていただきたくなりました。一緒に飯田先生のお話を聞かせていただいた本校生とたちも同じ気持ちだったのではないかと思います。

ご家庭でも名護屋城の歴史についてお子様とお話しする機会をお持ちいただけますと幸いです。

また、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、引き続き生徒に対して、適切なマスク着用や手指消毒及び換気等について指導しております。ご家庭でもご理解とご協力をお願いいたします。

佐賀県立巖木高等学校  
校長 坂本康晴